

1 令和4年産花きの作付（収穫）面積及び出荷量の動向

作付（収穫）面積は、切り花類が1万2,970ha（対前年産比98%）、球根類が234ha（同98%）、鉢ものの類が1,452ha（同99%）、花壇用苗ものの類が1,253ha（同98%）となった。

出荷量は、切り花類が31億3,300万本（同96%）、球根類が7,230万球（同97%）、鉢ものの類が1億8,040万鉢（同96%）、花壇用苗ものの類が5億3,440万本（同96%）となった。

表1 令和4年産花きの類別作付（収穫）面積及び出荷量（全国）

類別	作付（収穫） 面積	出荷量	対前年産比	
			作付（収穫） 面積	出荷量
	ha	万本（球・鉢）	%	%
切り花類	12,970	313,300	98	96
球根類	234	7,230	98	97
鉢ものの類	1,452	18,040	99	96
花壇用苗ものの類	1,253	53,440	98	96

注：1 球根類及び鉢ものの類は、収穫面積である。
2 出荷量の単位は、切り花類及び花壇用苗ものの類が万本、球根類が万球、鉢ものの類が万鉢である。

2 類別・品目別の作付（収穫）面積及び出荷量の動向

(1) 切り花類

作付面積は1万2,970haで、前年産に比べ310ha（2%）減少した。これは、生産者の高齢化等の労力事情により規模縮小等があったためである。

出荷量は31億3,300万本で、前年産に比べ1億1,600万本（4%）減少した。これは、作付面積の減少等があったためである。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が19%で最も高く、次いで沖縄県が8%、静岡県が6%、福岡県及び長野県がそれぞれ5%となっている。

品目別出荷量割合は、きくが39%で最も高く、次いで切り枝、カーネーション及びばらがそれぞれ6%、ガーベラが4%となっている。

図1 切り花類の作付面積及び出荷量の推移

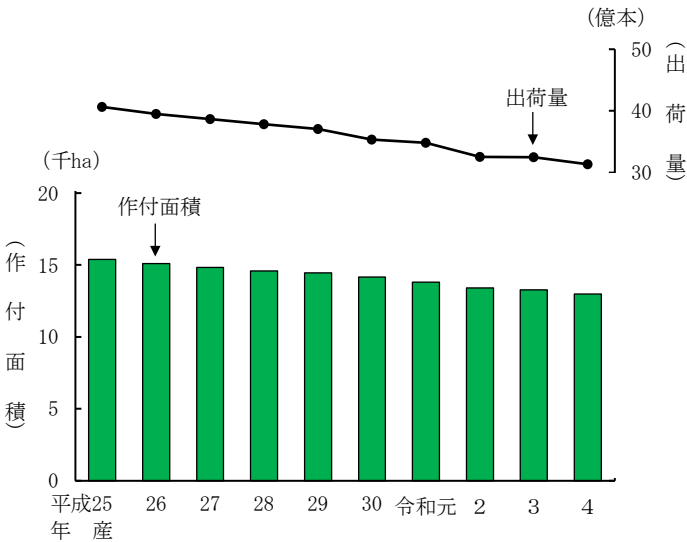
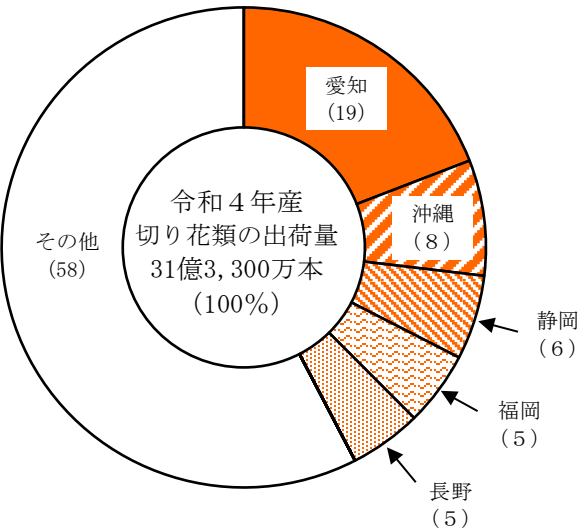


図2 切り花類の都道府県別出荷量割合



注：割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある（以下図44まで同じ。）。

図3 切り花類の品目別出荷量割合

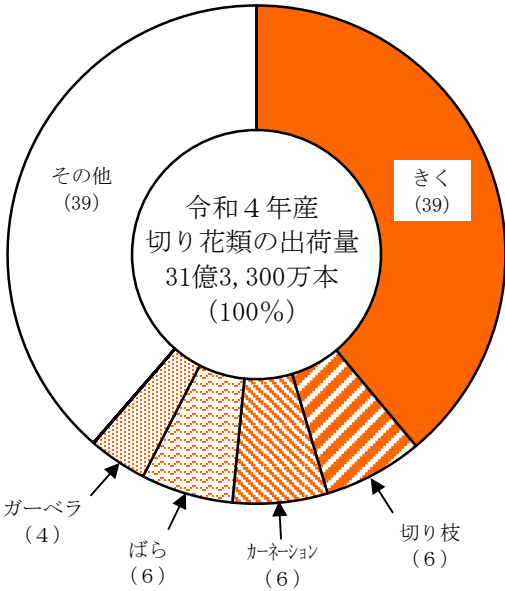


表2 令和4年産切り花類の作付面積及び出荷量（全国）

類・品目	作付面積	出荷量	対前年産比	
			作付面積	出荷量
	ha	万本	%	%
切り花類	12,970	313,300	98	96
うちきく	4,092	122,000	96	94
カーネーション	237	19,290	94	96
ばら	269	18,740	95	96
りんどう	396	7,210	96	96
宿根かすみそう	195	4,510	97	89
スターチス	166	11,670	99	95
ガーベラ	75	11,990	97	98
トルコギキョウ	392	8,380	98	98
ゆり	635	10,730	96	93
アルストロメリア	81	5,670	101	101
切り葉	564	8,630	98	94
切り枝	3,589	20,230	99	100

注：切り花類の値は、表章されている内訳品目以外の品目を含んだ合計である。

ア きく

作付面積は4,092haで、前年産に比べ166ha（4％）減少した。

出荷量は12億2,000万本で、前年産に比べ7,800万本（6％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が36％で最も高く、次いで沖縄県が18％、福岡県が6％、鹿児島県が5％、長崎県が4％となっており、この5県で全国の約7割を占めている。

図4 きくの作付面積及び出荷量の推移

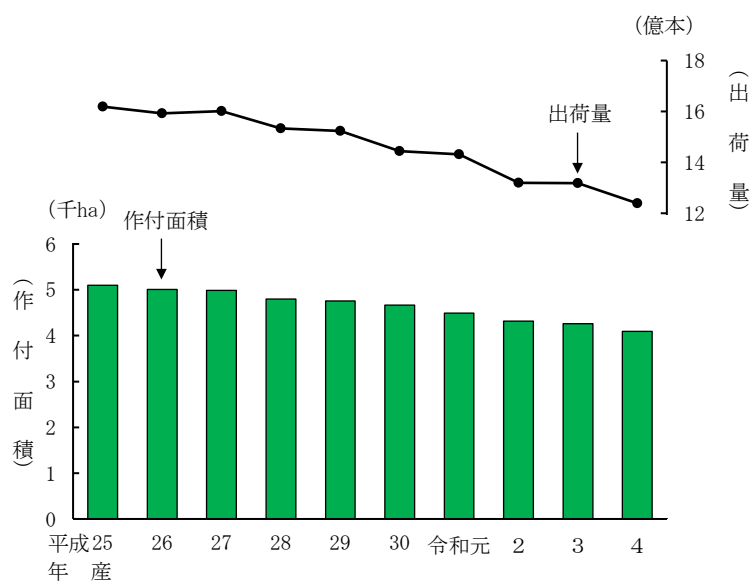
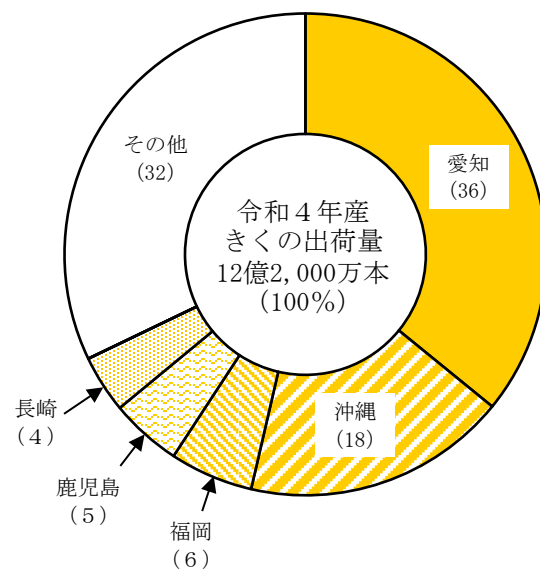


図5 きくの都道府県別出荷量割合



イ カーネーション

作付面積は237haで、前年産に比べ15ha（6％）減少した。

出荷量は1億9,290万本で、前年産に比べ860万本（4％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、長野県が22％で最も高く、次いで愛知県が18％、千葉県、兵庫県及び北海道がそれぞれ9％となっており、この5道県で全国の約7割を占めている。

図6 カーネーションの作付面積及び出荷量の推移

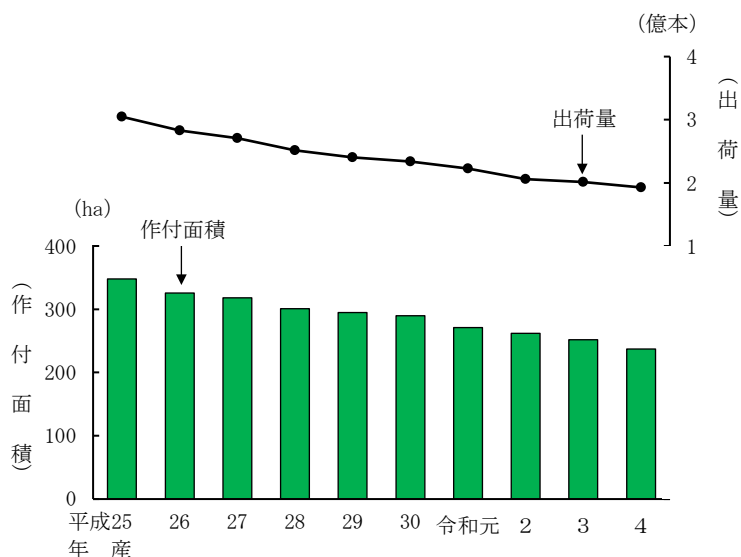
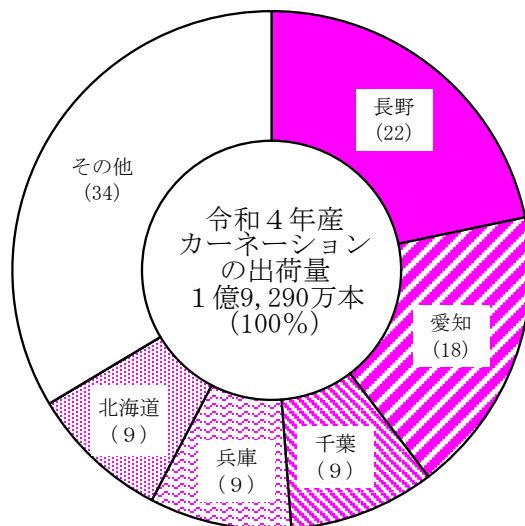


図7 カーネーションの都道府県別出荷量割合



ウ ばら

作付面積は269haで、前年産に比べ15ha（5％）減少した。

出荷量は1億8,740万本で、前年産に比べ700万本（4％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が19％で最も高く、次いで静岡県が9％、福岡県及び山形県がそれぞれ7％、群馬県が5％となっている。

図8 ばらの作付面積及び出荷量の推移

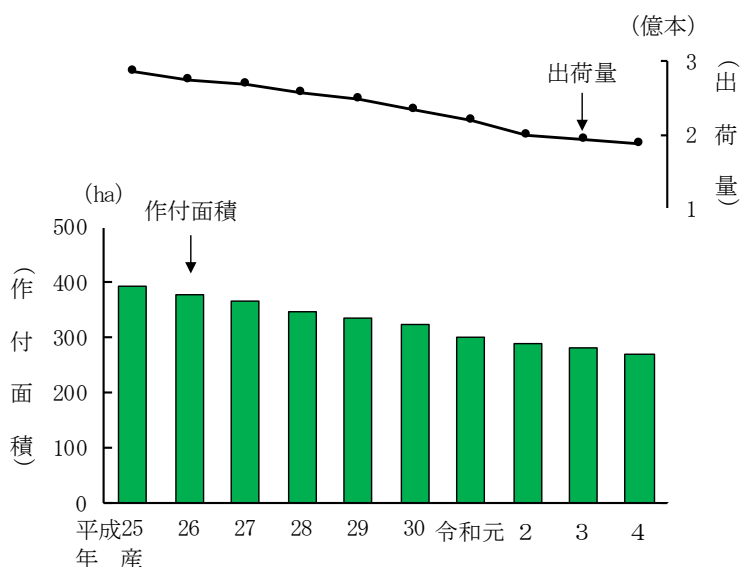
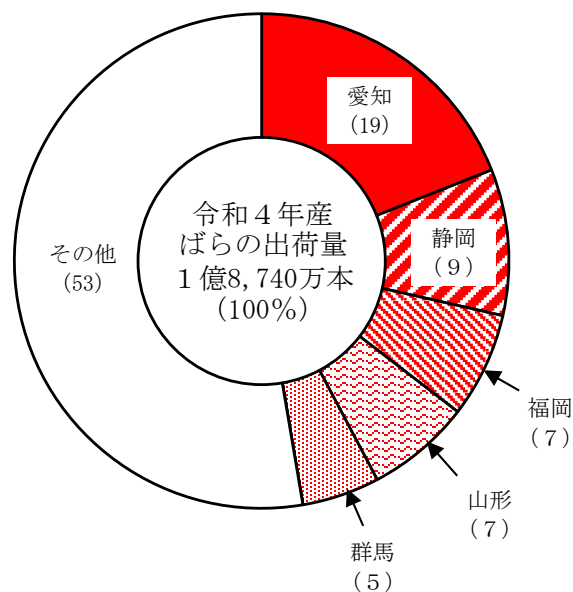


図9 ばらの都道府県別出荷量割合



エ りんどう

作付面積は396haで、前年産に比べ17ha（4％）減少した。

出荷量は7,210万本で、前年産に比べ330万本（4％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、岩手県が59%で最も高く、次いで秋田県が13%、山形県が10%となっており、この3県で全国の約8割を占めている。

図 10 りんどうの作付面積及び出荷量の推移

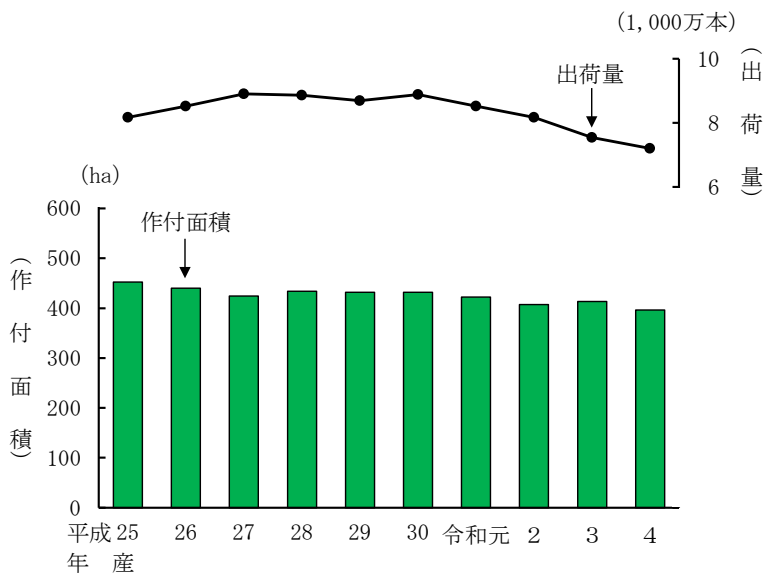
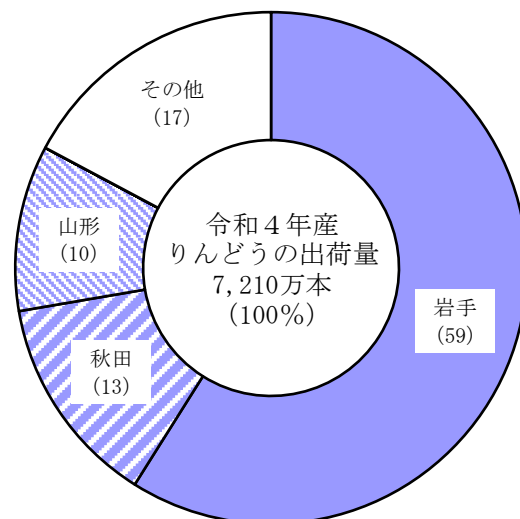


図 11 りんどうの都道府県別出荷量割合



オ 宿根かすみそう

作付面積は195haで、前年産に比べ6 ha（3％）減少した。

出荷量は4,510万本で、前年産に比べ570万本（11％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、熊本県が39%で最も高く、次いで和歌山県が20%、福島県が18%となっており、この3県で全国の約8割を占めている。

図 12 宿根かすみそうの作付面積及び出荷量の推移

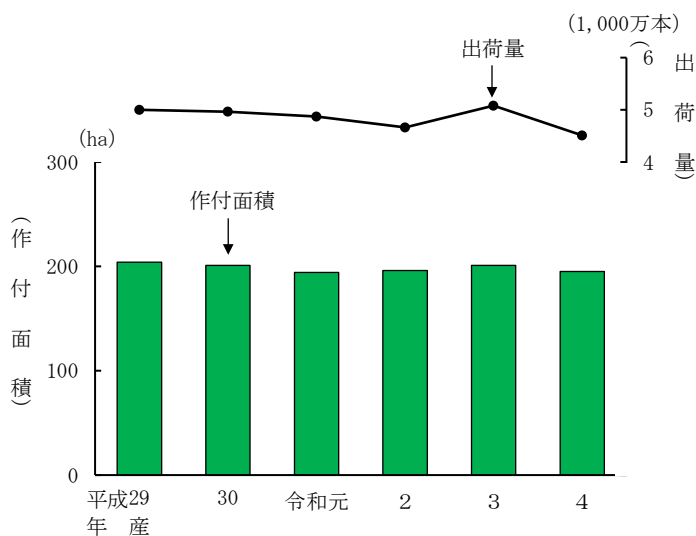
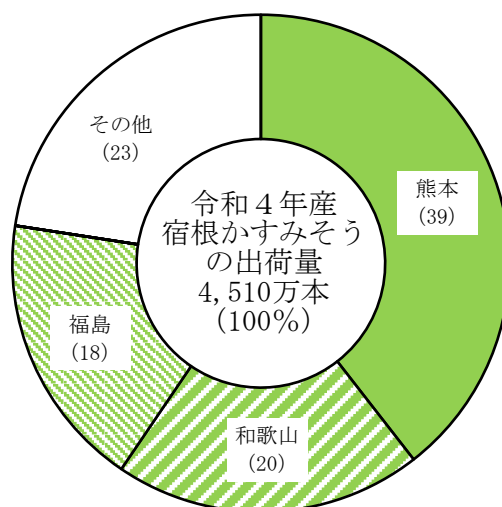


図 13 宿根かすみそうの都道府県別出荷量割合



カ スターチス

作付面積は166haで、前年産に比べ1ha（1％）減少した。

出荷量は1億1,670万本で、前年産に比べ570万本（5％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、和歌山県が54％で最も高く、次いで北海道が26％となっており、この2道県で全国の8割を占めている。

図 14 スターチスの作付面積及び出荷量の推移

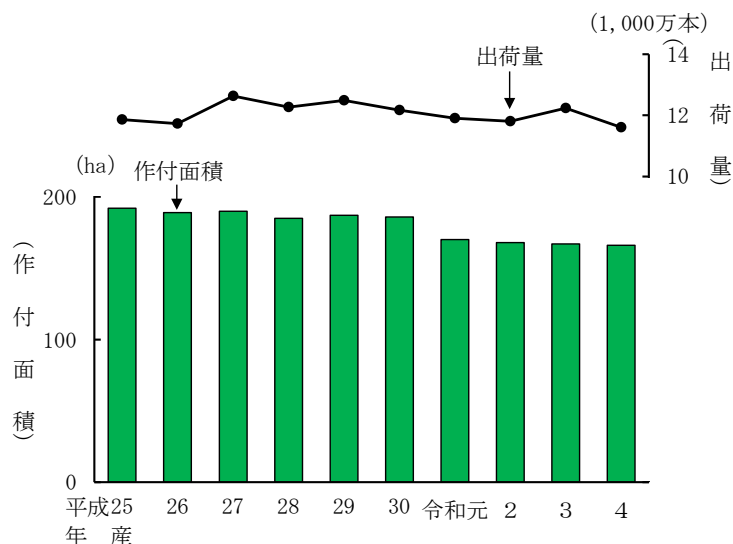
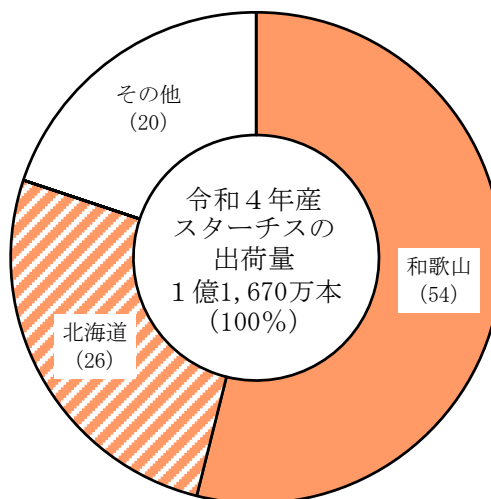


図 15 スターチスの都道府県別出荷量割合



キ ガーベラ

作付面積は75haで、前年産に比べ3ha（3％）減少した。

出荷量は1億1,990万本で、前年産に比べ270万本（2％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、静岡県が43％で最も高く、次いで福岡県が14％、和歌山県が9％、愛知県が7％、千葉県が5％となっており、この5県で全国の約8割を占めている。

図 16 ガーベラの作付面積及び出荷量の推移

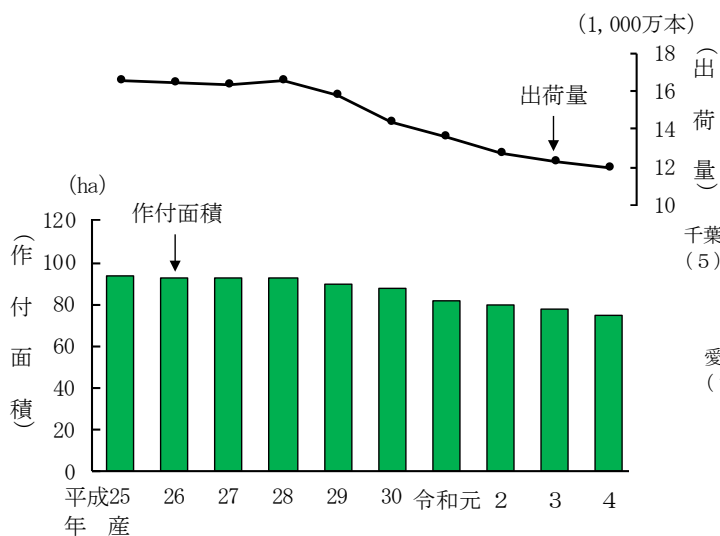
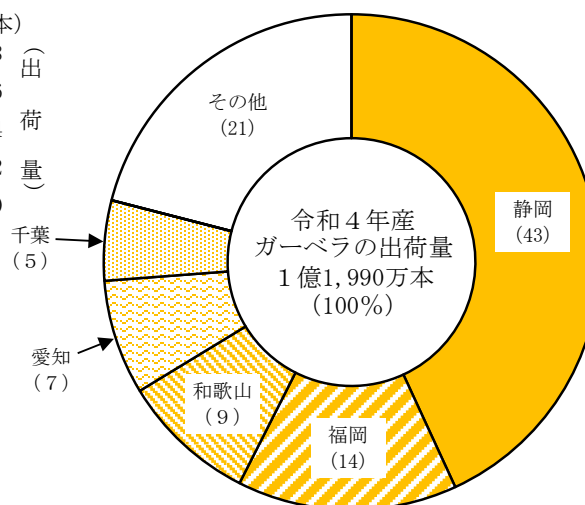


図 17 ガーベラの都道府県別出荷量割合



ク トルコギキョウ

作付面積は392haで、前年産に比べ10ha（2％）減少した。

出荷量は8,380万本で、前年産に比べ160万本（2％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、長野県が16％で最も高く、次いで熊本県が12％、福岡県が8％、静岡県が5％、山形県が4％となっている。

図 18 トルコギキョウの作付面積及び出荷量の推移

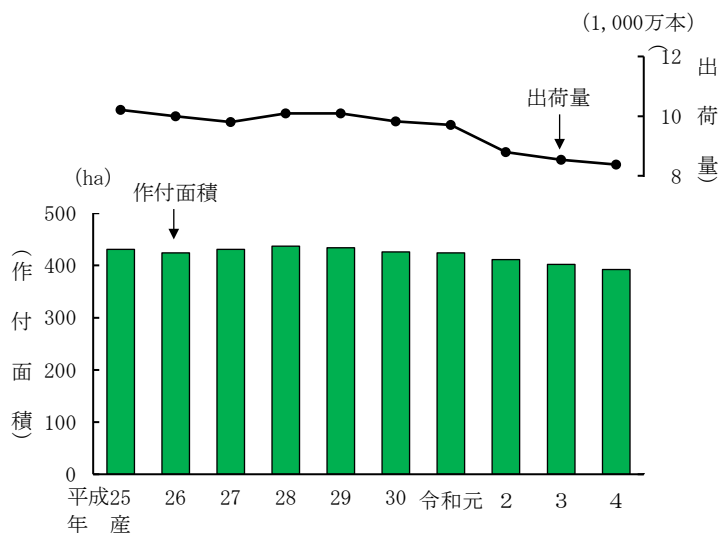
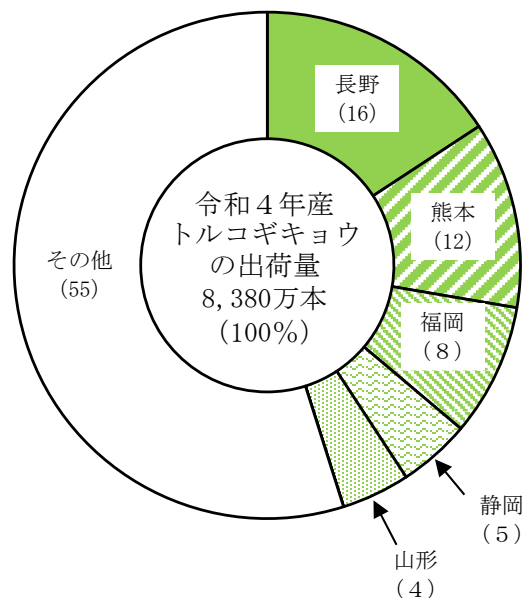


図 19 トルコギキョウの都道府県別出荷量割合



ケ ゆり

作付面積は635haで、前年産に比べ24ha（4％）減少した。

出荷量は1億730万本で、前年産に比べ750万本（7％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、埼玉県が22％で最も高く、次いで新潟県及び高知県がそれぞれ10％、宮崎県及び千葉県が6％となっており、この5県で全国の約5割を占めている。

図 20 ゆりの作付面積及び出荷量の推移

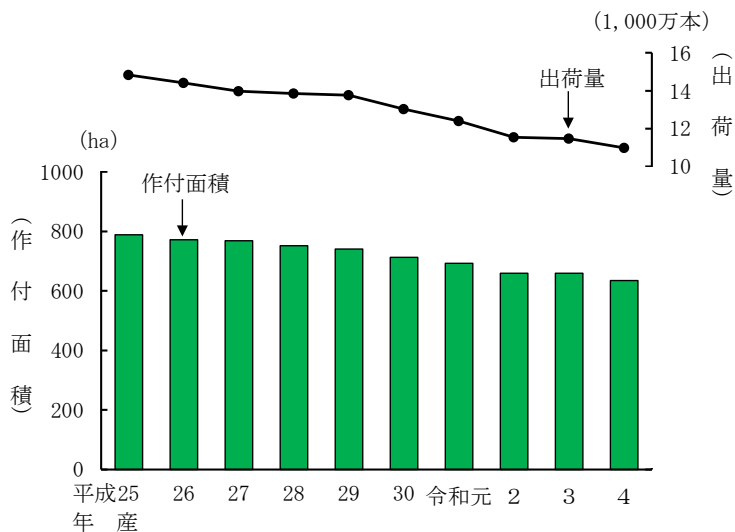
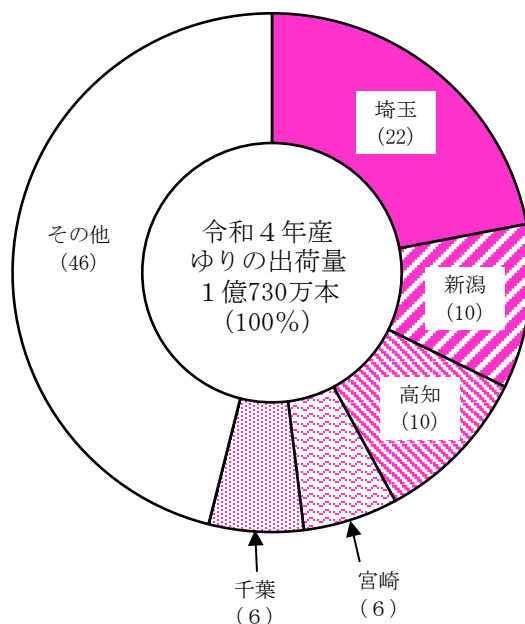


図 21 ゆりの都道府県別出荷量割合



コ アルストロメリア

作付面積は81haで、前年産に比べ1ha（1％）増加した。

出荷量は5,670万本で、前年産に比べ50万本（1％）増加した。

都道府県別出荷量割合は、長野県が38％で最も高く、次いで愛知県が21％、山形県及び北海道がそれぞれ10％、大分県が4％となっており、この5道県で全国の約8割を占めている。

図 22 アルストロメリアの作付面積及び出荷量の推移

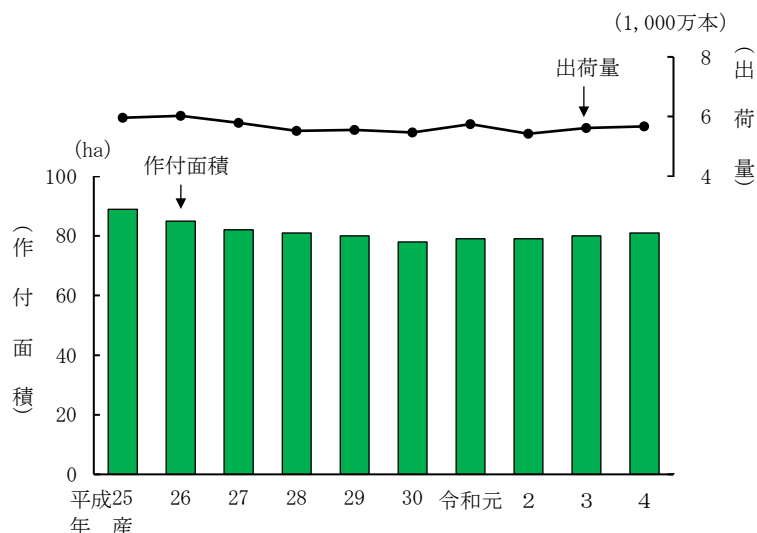
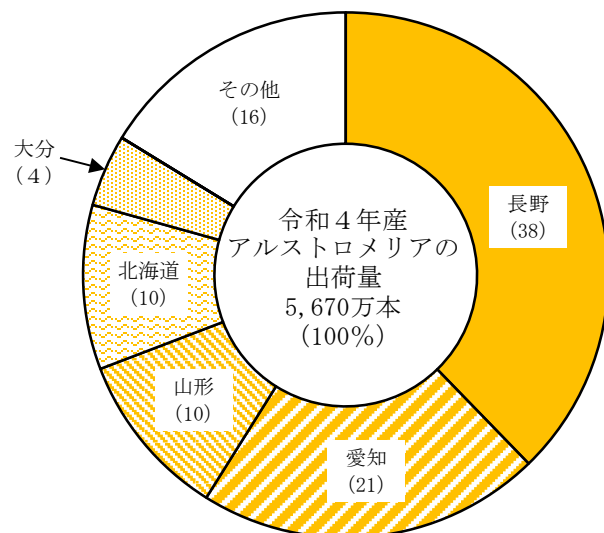


図 23 アルストロメリアの都道府県別出荷量割合



サ 切り葉

作付面積は564haで、前年産に比べ9ha（2％）減少した。

出荷量は8,630万本で、前年産に比べ530万本（6％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、東京都が31％で最も高く、次いで沖縄県が21％、鹿児島県が14％、静岡県が8％、千葉県が5％となっており、この5都県で全国の約8割を占めている。

図 24 切り葉の作付面積及び出荷量の推移

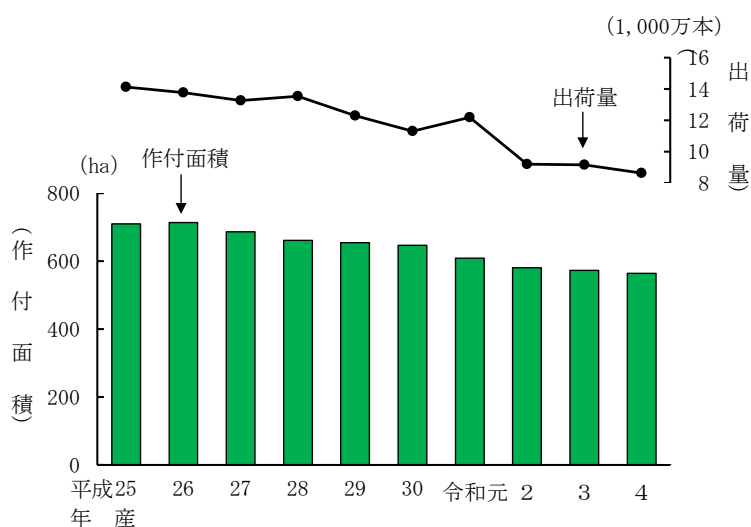
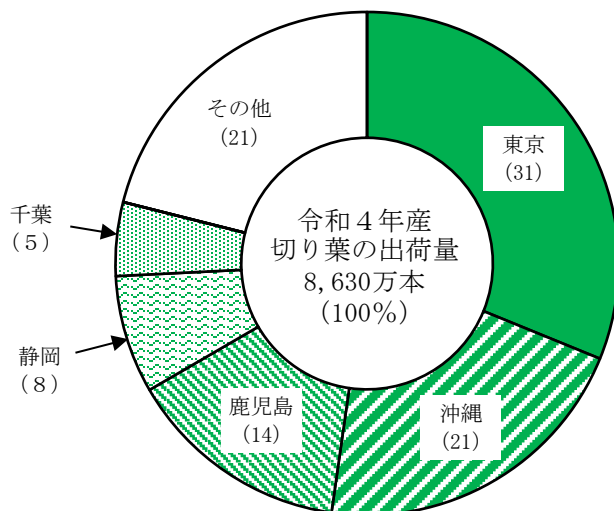


図 25 切り葉の都道府県別出荷量割合



シ 切り枝

作付面積は3,589haで、前年産に比べ32ha（1％）減少した。

出荷量は2億230万本で、前年産並みとなった。

都道府県別出荷量割合は、静岡県が16%で最も高く、次いで茨城県が15%、和歌山県が7%、愛媛県及び宮崎県がそれぞれ5%となっている。

図 26 切り枝の作付面積及び出荷量の推移

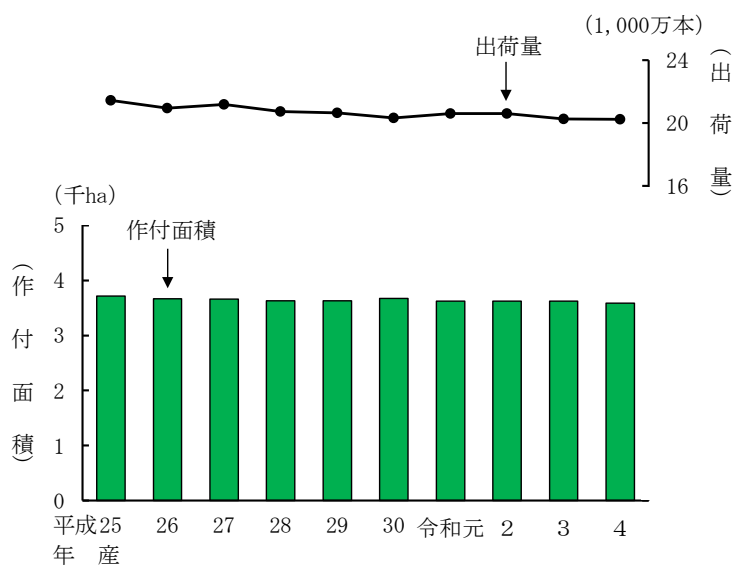
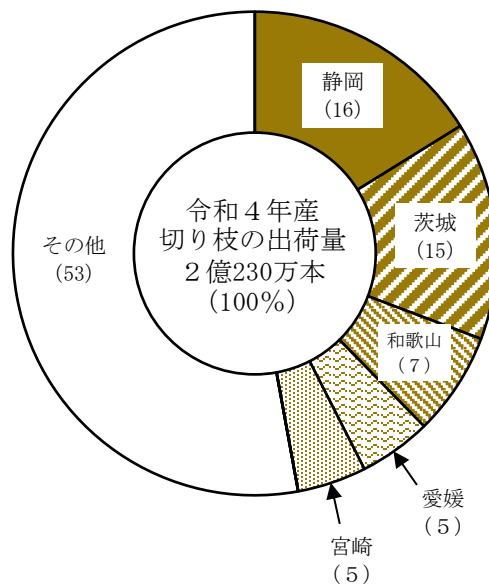


図 27 切り枝の都道府県別出荷量割合



(2) 球根類

収穫面積は234haで、前年産に比べ5 ha（2％）減少した。これは、生産者の高齢化等の労力事情により規模縮小等があったためである。

出荷量は7,230万球で、前年産に比べ190万球（3％）減少した。これは、天候不順の影響により球根の生育がやや悪かったためである。

都道府県別出荷量割合は、鹿児島県が23％で最も高く、次いで富山県及び新潟県がそれぞれ17％、宮崎県が8％となっており、この4県で全国の約7割を占めている。

図 28 球根類の収穫面積及び出荷量の推移

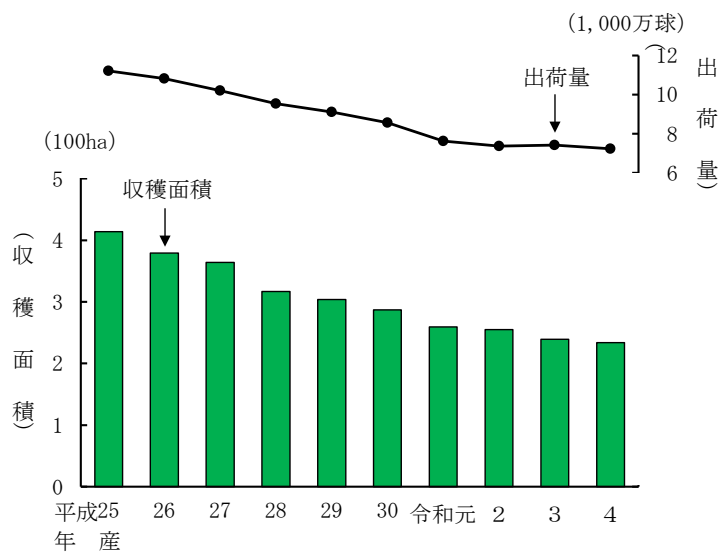


図 29 球根類の都道府県別出荷量割合

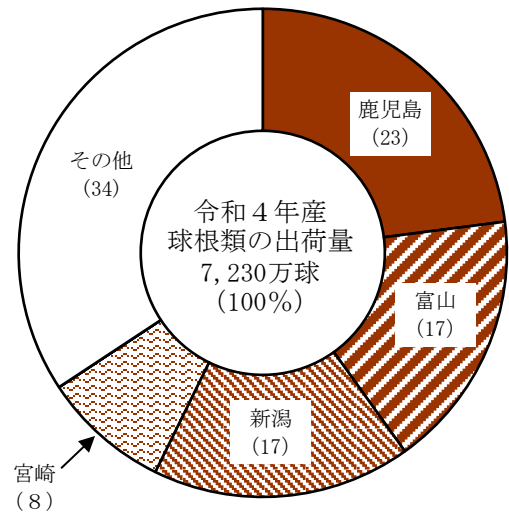


表 3 令和4年産球根類の収穫面積及び出荷量（全国）

類 別	収 穫 面 積	出 荷 量	対 前 年 産 比	
			収 穫 面 積	出 荷 量
	ha	万球	%	%
球 根 類	234	7,230	98	97

(3) 鉢ものの類

収穫面積は1,452haで、前年産に比べ22ha（1％）減少した。これは、生産者の高齢化等の労力事情により規模縮小等があったためである。

出荷量は1億8,040万鉢で、前年産に比べ820万鉢（4％）減少した。これは収穫面積の減少や一部で病害の発生があったためである。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が26％で最も高く、次いで埼玉県が9％、静岡県が7％、岐阜県が6％、茨城県が4％となっており、この5県で全国の約5割を占めている。

品目別出荷量割合は、観葉植物が23％で最も高く、次いで花木類が17％、シクラメンが8％、洋ラン類が6％となっている。

図 30 鉢ものの類の収穫面積及び出荷量の推移

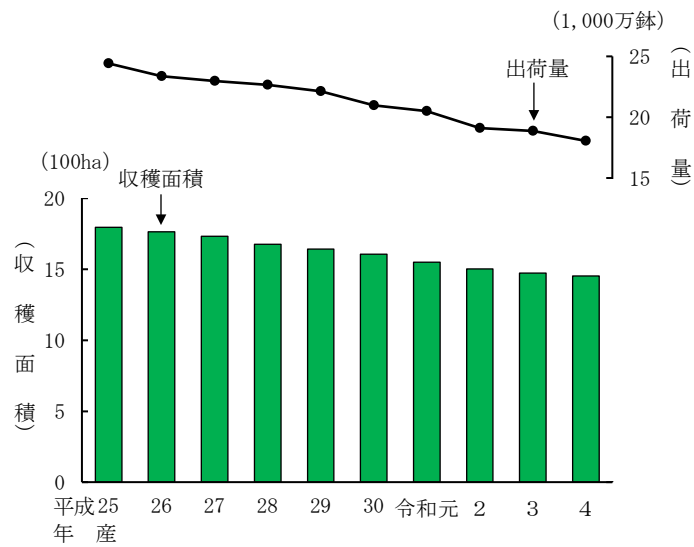


図 31 鉢ものの類の都道府県別出荷量割合

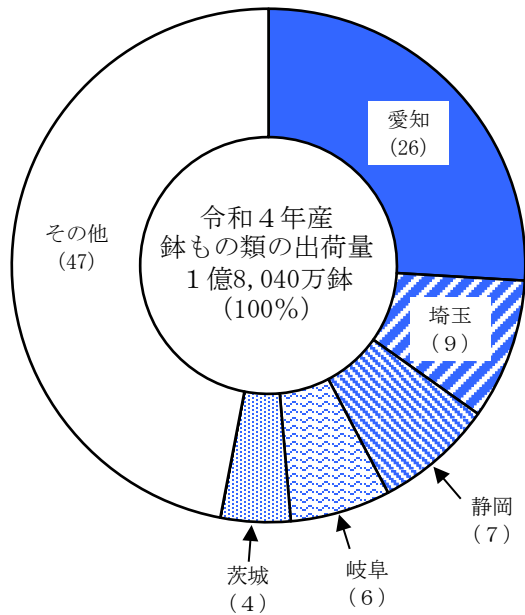


図 32 鉢ものの類の品目別出荷量割合

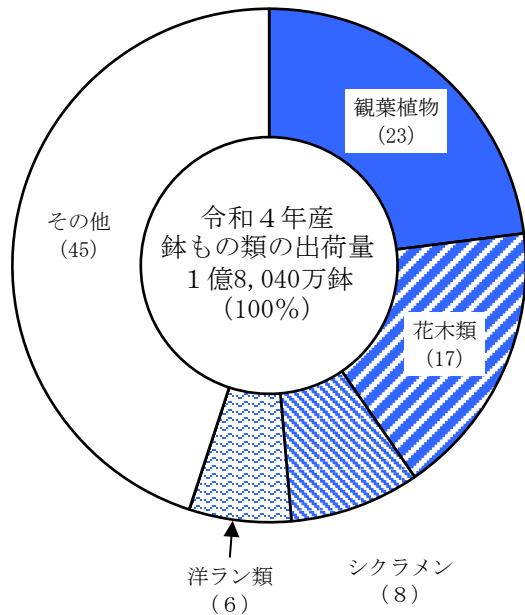


表 4 令和4年産鉢ものの類の収穫面積及び出荷量（全国）

類・品目	収 穫 面 積	出 荷 量	対 前 年 産 比	
			収 穫 面 積	出 荷 量
	ha	万鉢	%	%
鉢 物 の 類	1,452	18,040	99	96
うち シクラメン	156	1,480	98	97
洋ラン類	168	1,160	99	97
観葉植物	257	4,150	97	97
花木類	290	3,140	96	94

注：鉢ものの類の値は、表章されている内訳品目以外の品目を含んだ合計である。

ア シクラメン

収穫面積は156haで、前年産に比べ4ha（2％）減少した。

出荷量は1,480万鉢で、前年産に比べ40万鉢（3％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、長野県が14%で最も高く、次いで愛知県が11%、千葉県が6％、茨城県及び福島県がそれぞれ5％となっている。

図 33 シクラメンの収穫面積及び出荷量の推移

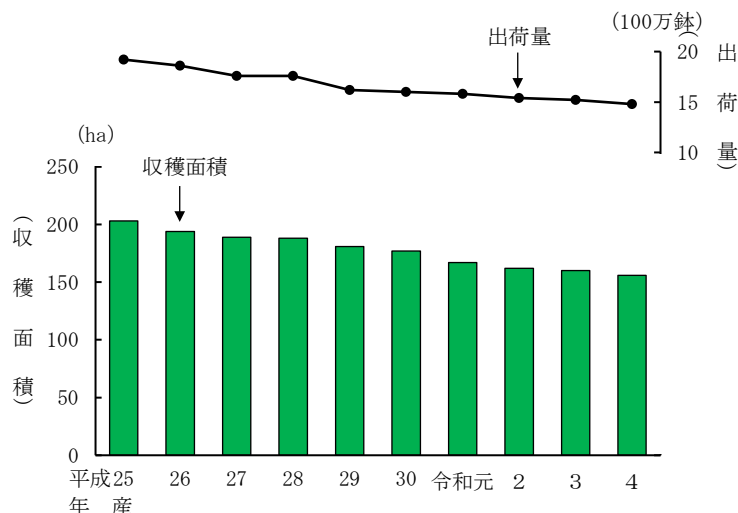
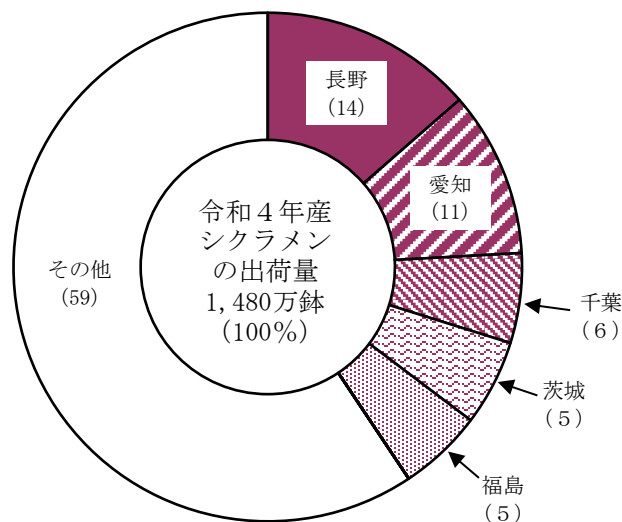


図 34 シクラメンの都道府県別出荷量割合



イ 洋ラン類

収穫面積は168haで、前年産に比べ2ha（1％）減少した。

出荷量は1,160万鉢で、前年産に比べ30万鉢（3％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が26%で最も高く、次いで熊本県が10%、福岡県が9％、千葉県が7％、山梨県が6％となっており、この5県で全国の約6割を占めている。

図 35 洋ラン類の収穫面積及び出荷量の推移

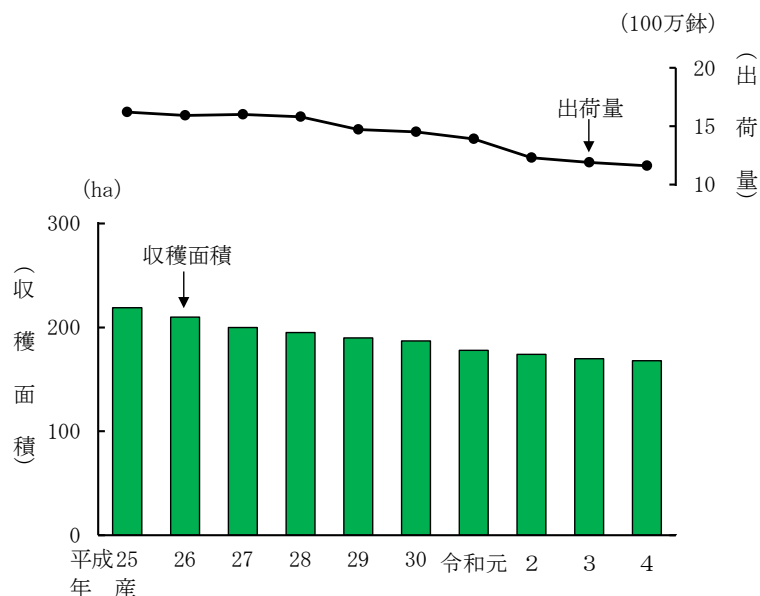
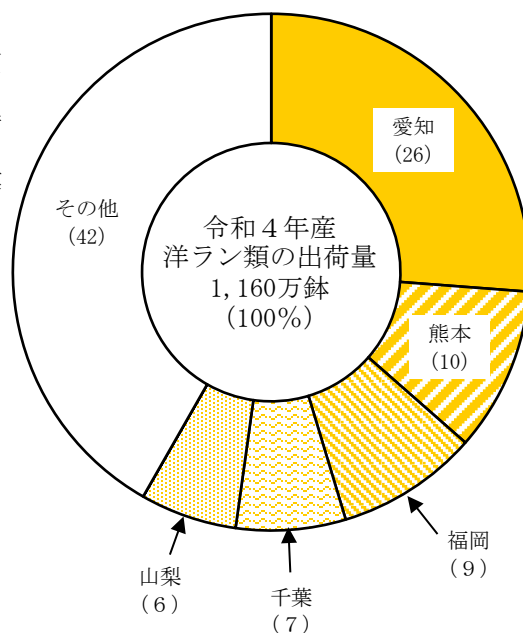


図 36 洋ラン類の都道府県別出荷量割合



ウ 観葉植物

収穫面積は257haで、前年産に比べ8ha（3％）減少した。

出荷量は4,150万鉢で、前年産に比べ140万鉢（3％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が48％で最も高く、次いで静岡県が13％、三重県が8％、鹿児島県が4％、千葉県が3％となっており、この5県で全国の約8割を占めている。

図 37 観葉植物の収穫面積及び出荷量の推移

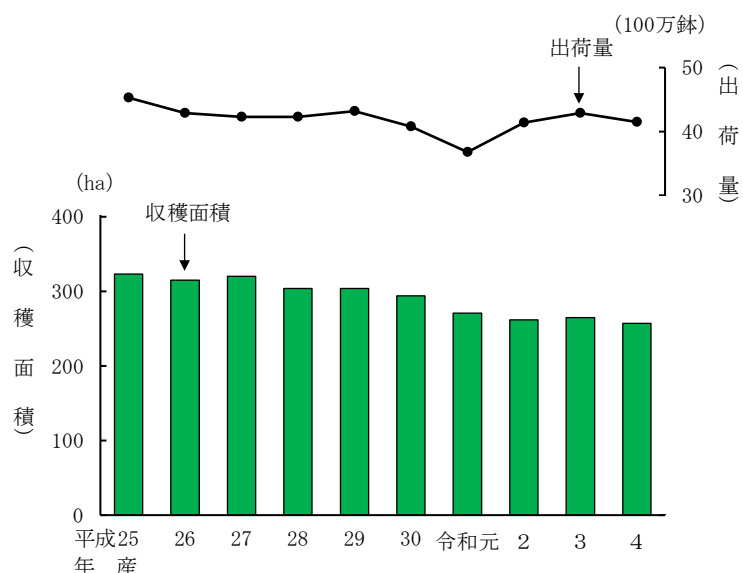
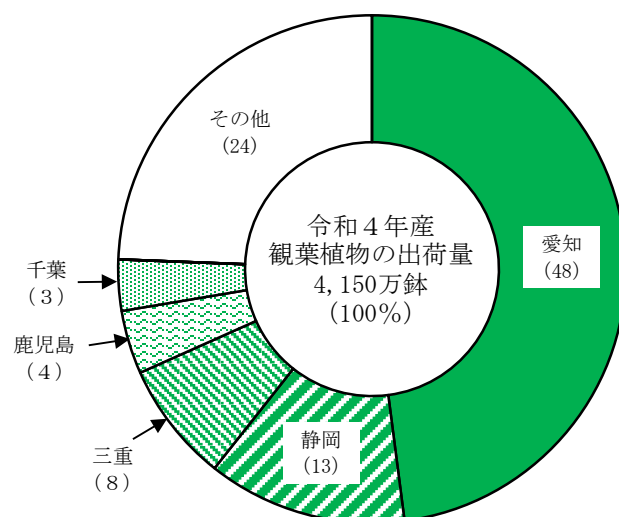


図 38 観葉植物の都道府県別出荷量割合



エ 花木類

収穫面積は290haで、前年産に比べ11ha（4％）減少した。

出荷量は3,140万鉢で、前年産に比べ210万鉢（6％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が22％で最も高く、次いで新潟県が17％、岐阜県が14％、埼玉県及び静岡県がそれぞれ7％となっており、この5県で全国の約7割を占めている。

図 39 花木類の収穫面積及び出荷量の推移

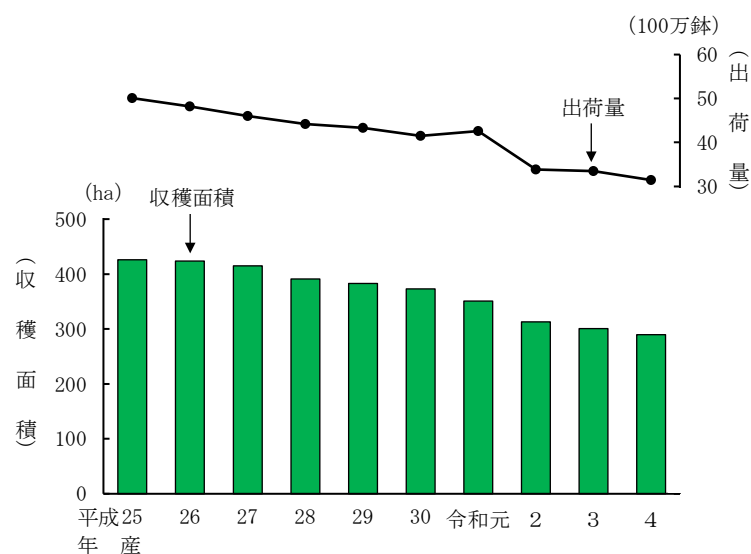
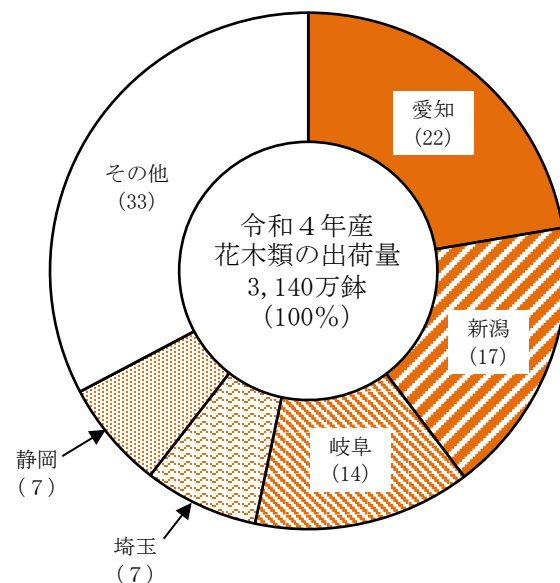


図 40 花木類の都道府県別出荷量割合



(4) 花壇用苗ものの類

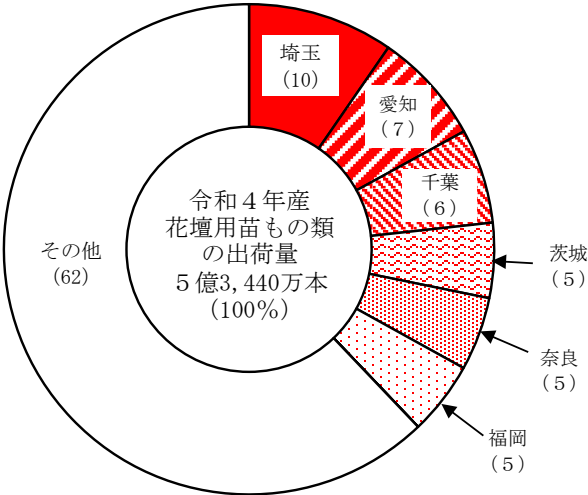
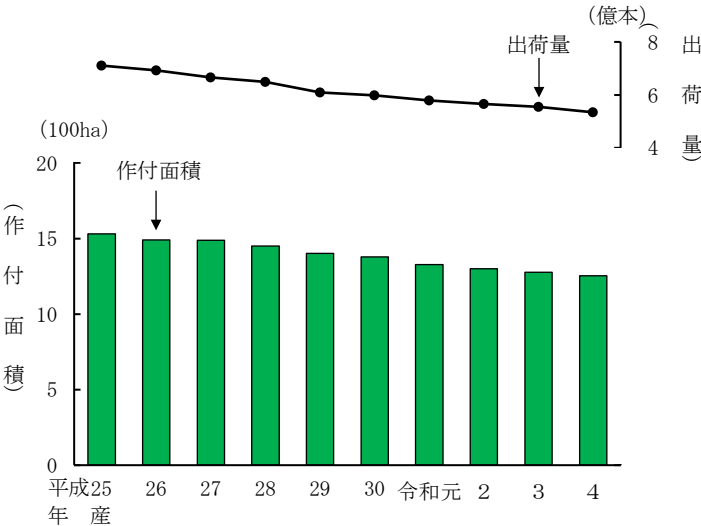
作付面積は1,253haで、前年産に比べ24ha（2％）減少した。これは、生産者の高齢化等の労力事情により規模縮小等があったためである。

出荷量は5億3,440万本で、前年産に比べ2,000万本（4％）減少した。これは、作付面積の減少等があったためである。

都道府県別出荷量割合は、埼玉県が10％で最も高く、次いで愛知県が7％、千葉県が6％、茨城県、奈良県及び福岡県がそれぞれ5％となっている。

図 41 花壇用苗ものの類の作付面積及び出荷量の推移

図 42 花壇用苗ものの類の都道府県別出荷量割合



このうち、パンジーの作付面積は236haで、前年産に比べ3ha（1％）減少した。

出荷量は1億570万本で、前年産に比べ330万本（3％）減少した。

都道府県別出荷量割合は埼玉県が7％で最も高く、次いで愛知県、神奈川県及び奈良県がそれぞれ6％、福岡県が5％となっている。

図 43 パンジーの作付面積及び出荷量の推移

図 44 パンジーの都道府県別出荷量割合

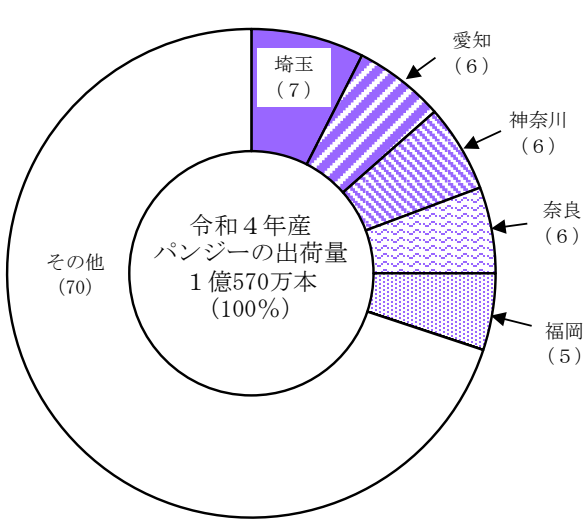
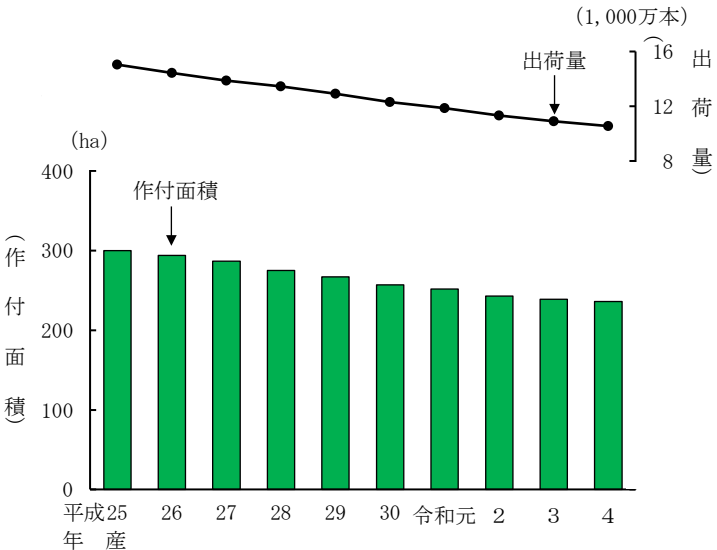


表 5 令和4年産花壇用苗ものの類の作付面積及び出荷量（全国）

類・品目	作付面積	出荷量	対前年産比	
			作付面積	出荷量
	ha	万本	%	%
花壇用苗ものの類	1,253	53,440	98	96
うちパンジー	236	10,570	99	97

注：花壇用苗ものの類の値は、表章されている内訳品目以外の品目を含んだ合計である。